

第4号様式（第10条関係）

会 議 録（要 旨）

会 議 名	第4回 武蔵村山市社会教育委員会議
開 催 日 時	平成20年11月13日（木） 午前10時00分～12時00分
開 催 場 所	さくらホール（市民会館） 集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：（委員）奥野議長、河原塚副議長、小林委員、田中委員、岡本委員、田口委員、栗原委員、浅井委員 （事務局）生涯学習スポーツ課長、生涯学習グループ主査・主事 欠席者：市川委員、滝坂委員
議 題	武蔵村山市生涯学習センター（仮称）構想について
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	<p>次回の会議では、今回の会議でまとめた、地域別の特色などのデータを踏まえ、どのような設備を備えた生涯学習施設が必要とされているのかについて、議論を続ける。</p>
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。）	<p>（事務局）社会教育法第17条1項の規定に基づき、「武蔵村山市生涯学習センター（仮称）構想について」意見を求める。</p> <p>（議 長）私たちの住む武蔵村山市の社会教育施設の状況を確認、整理するところからはじめます。</p> <p>（事務局より、参考資料の確認と説明）</p> <p>（事務局）委員の皆さんには、カードワークを行い、市内の各地域の特色を抽出していただきたい。</p> <p>（事務局より、市内の概況について説明）</p> <p>（カードワークの結果については、3・4ページを参照のこと）</p> <p>（副議長）カードワークで出された意見をまとめてみると、A地区（岸・三ツ木など市内北西部）は自然の豊かな地域で、代々住んでいる方が多く、“本村（ほんそん）”といわれる地域である。また、歴史民俗資料館や里山民家、総合体育館などの学びの場もそれなりに充実しているといえる。</p> <p>B地区（中藤、神明など市内北東部）は、A地区と同じく、“本村”といわれる地域で、代々住んでいる方が多く、狭山丘陵部に位置することから、自然の豊かなところである。また、市役所や市民会館等が所在しており、市行政の中心といえる。さらに、「武蔵村山市の人口と世帯」の資料をみると、近年、神明では人口・世帯がかなり増加していることがわかる。宅地化が進んでいることを示しているのだろう。A・B地区には、歴史的文化的財も多く残されている。</p> <p>C地区（中原、残堀、伊奈平等市内南西部）は、横田基地関連施設と工業団地と宅地が混在しているといったイメージのある地域。</p> <p>D地区（榎、学園、大南など市内南東部）は、村山団地を中心とした住宅地で、人口密集地である。学園と大南の人口を合算すると1万世帯を超えており、市の人口の4割程度がここにいることになる。しかしながら、緑が丘地区については高齢化が進んでいる。また、大型商業施設が建設され商業の中心となりうる地域である。</p> <p>これらの地域ごとの特色がみえてきたところで、各委員の意見を求める。</p>

	<p>(市の自然環境、歴史環境等について事務局より補足説明)</p> <p>(委員)市全体のイメージとしては、東京都で唯一電車の走っていない市など、交通の便の悪い印象が強い。</p> <p>(議長)次回は、公共施設についてさらに詳しく議論を進めていく。どのような設備が必要なのかについて、話し合っていきたい。</p> <p>(委員)住民の意識調査等のデータがあれば、次回の会議資料として準備してほしい。また、それらのデータに関して、市内の地域別にまとめられているものがあれば、ぜひそれもほしい。</p> <p>(事務局)了解した。</p> <p>次回の会議日程について 委員の日程調整の結果、1月20日(火)15時に決定する。</p>
--	---

会議の公開・非公開の別	<p>公開 一部公開 非公開 一部公開又は非公開とした理由</p> <p>傍聴者： 0 人</p> <p>()</p>
-------------	--

会議録の開示・非開示の別	<p>開示 一部開示(根拠法令等：) 非開示(根拠法令等：)</p>
--------------	--

庶務担当課	教育委員会 教育部 生涯学習スポーツ課(内線：652・653)
-------	---------------------------------

(日本工業規格A列4番)

市内各地域の特色

A地区（岸・三ツ木など市内北西部）

- ・自然が多い（同意見3件）
- ・狭山丘陵は緑多い（同意見2件）
- ・代々住んでいる方が多い（同意見3件）
- ・“本村（旧青梅街道沿いの地域）”といわれる
- ・旧住民多い
- ・旧家、農業が多い
- ・世帯数少ない
- ・歴史的文化財が残っている
- ・この地域の伝統文化を残している
- ・神社が多い
- ・歴史民俗資料館や水田、里山民家など、学びの場が多い
- ・市の運動場、体育館がある
- ・中久保と三ツ木と二つの地区公民館（地区会館）がある
- ・交通の便が悪い

B地区（中藤、神明など市内北東部）

- ・狭山丘陵の麓で自然が豊か（同意見3件）
- ・市役所、市民会館など市行政の中心となっている地域を含む（同意見2件）
- ・代々住んでいる方も北部に多い
- ・古い住民が多く、そのため地域の結びつきが強い
- ・独特の部落の名があったりと、古い村のイメージ
- ・歴史的文化財がある
- ・昔からの街並
- ・畑なども残っている
- ・近年住宅が増えているものの、自治会への参加が少なく、安全協会などの衰退目立つ
- ・交通の便悪い
- ・地形が起伏に富み、徒歩・自転車での移動に困難がある
- ・谷津自治会では、休日、地域の方を集め、グランドゴルフやうどん作り、市のイベントにも参加
- ・少年野球は父親がコーチになって、週末には盛んになってやっているよう

C地区（中原、残堀、伊奈平など市内南西部）

- ・米軍基地、横田基地に近い（同意見3件）
- ・横田基地が近いので、騒音問題もあるのでは
- ・新興住宅地
- ・戸建住宅も多くみられる
- ・新しい住宅が増え、人口が増加し、子どもの数も増えている
- ・工業地
- ・工業団地などがあり、工場物流拠点が多い
- ・工業地域が多く、昼夜の人口差があり、地域活動に支障がでるのでは
- ・学園地域

D地区（榎、学園、大南など市内南東部）

- ・村山団地を中心とした住宅地
- ・団地の街
- ・都営住宅がある
- ・団地
- ・住宅が多く、人口密度も高い 人口密集地（同意見3件）
- ・開発途上（日産跡地など）
- ・新しい商業の可能性（文化の中心となりうる）
- ・新たな商業施設も誕生し、広大な土地もある
- ・日産跡地がどのような姿になるのか、まだよく見えて来ない
- ・宅地開発がまだ進んでいる
- ・学園
- ・病院
- ・病院、学校など公共施設が多い
- ・もともと武蔵村山生まれの人が少ない
- ・昭和40年代から流入した住民が多い
- ・緑が丘地区は高齢者が多い（同意見2件）
- ・高齢者が多い
- ・子どもの数が激減